

愛知県総代幹部研修会



小串和夫庁長挨拶

総代幹部研修会が県教化常任委員会企画の下、熱田神宮会館において県神社庁・県神社総代会の共催で開催された。当日は県内より127名の参加があった。本年は終戦70年の節目の年であることから、研修内容は英霊顕彰に対するさらなる理解を深めることを趣旨として企画された。熱田神宮を正式参拝後、開講式では小串和夫庁長が県内の神宮大麻頒布について各位のご尽力の賜物であると謝辞と述べ、「総代の方々のお支えがなければ神社は成り立たない。少子高齢化を始め、限界集落、将又消滅自治体など神社を取り巻く環境は年々厳しくなっている。代々継承されるお祭りが絶えないよう、今後とも神職とともにご尽力を改めてお願いしたい」とし、「限られた時間の中であるが、有意義な一日にしていきたい」と挨拶された。引き続き県神社総代会副会長大森一人氏が「神道全般に関することを研鑽し、わが国の美風を改めて学習していただきたい」との挨拶があった。



白井貞光氏講演



渡部年晴氏講演

午前の研修では「靖国問題の周辺」と題して、愛知県護国神社名誉宮司白井貞光氏が講演。氏は40年に亘る神職在職中の経験と教化実践をされる立場から「千年後、大東亜戦争で戦死された方がどこでお祀りされているか。国があれば、お伊勢さんも熱田さんも靖国さんも護

國神社も存在する。それが国の形であり、神社である」との立場からご講義いただいた。講演後には総代からも質問が出されるなど、盛況であった。次いで午後の講演は元海上自衛隊潜水艦艦長を歴任し、現在は皇學館大学非常勤講師の渡部年晴氏が「部下の命を預かるとは一戦後70年の今伝えたいこと」と題しての講演があった。氏は海上自衛隊の任務や幹部候補生の養成方法、我々が知りえない潜水艦の現状等スライドを用いて丁寧にご講義され、「潜水艦という、乗組員全員の命を預かる立場は責任重大であることはいうまでもなく、その職責は神社の宮司や総代という立場にある人も同じである」とご自身の立場を踏まえて興味深く述べられた。講演は予定時間を上回るほど、熱がこもったものとなり、盛会のうちに講演が終了した。

最後に受講者を代表して修了証が岡崎支部小林繁三郎氏に手渡され、三浦正典教化委員長からの総括があり、研修を終えた。